

「アジアの公的マイクロ統計の活用」について

統計数理研究所 馬場康維

1. セッションの狙い

近年のアジア経済の発展は目覚ましいものがあり、それに伴い、我が国にとっても経済のみならず文化的・社会的な関係が生じてくることが予測される。このような状況下で、アジアの公的統計を用いて、客観的に経済・社会的な実証分析をすることは十分に意味のあることと考えられる。欧米諸国には、"Luxemburg Income Study" (LIS) がありマイクロデータによる国際比較が可能である。これに比して、アジアでは国際比較可能なデータベースの構築は立ち遅れており、アジア諸国の政府統計二次利用の門戸を開く必要がある。

我が国では新統計法の全面施行によって国内の公的世帯統計の二次利用が進みつつある。また、公益財団法人統計情報研究開発センターを中心にして、アジア諸国の世帯統計マイクロデータの収集、データベース化が進められ、公的世帯統計の二次利用を促進するサテライトとして統計数理研究所内に設置されているオンサイト解析室に、データベース提供が図られている。

このセッションは、日本も含むアジアの公的統計を用いた実証分析を中心とした話題の提供により、研究者のアジアの統計への関心を促すことを目的としている。

2. セッションの構成

このセッションでは、公益財団法人統計情報研究開発センターが収集し統計数理研究所がサテライトとしてデータ解析の場を提供している「アジア諸国の世帯統計マイクロデータ」に関する 2 つの報告と、「アジア諸国の世帯統計マイクロデータ」および我が国のマイクロデータを利用した 3 件の分析の報告がある。

1) アジア諸国のマイクロデータに関する報告は下記の 2 件である。

- ・国際マイクロ統計データベース利用上の課題（古田裕繁）では、アジアのマイクロデータを用いた国際ワークショップから見えてきた国際マイクロ統計データベース利用上の問題点が提示される。
- ・国際マイクロ統計データベースの整備と利用（岡本基・山下智志）では、統計数理研究所のオンサイト室で利用できる「国際マイクロ統計データベース」の概要、利用法等についての報告が行われる。

2) マイクロデータを用いた分析は下記の 3 件である。

- ・ベトナム農村における自然災害と貧困・家計所得（高橋壘）
- ・ベトナム家計調査データの視覚化（久保田貴文）
- ・住宅・宅地資産が個人の就業行動に与える影響（伊藤伸介・出島敬久・村田磨理子）

3. 今後の課題

世帯統計を用いた国際比較については、毎年行われている「国際ワークショップ」で実験的な解析が行われている。その経験からいえることは、比較のためには、家族形態の違い、宗教の違い等を考慮して標準化したデータの整備が必要であり、今後の課題である。

。

参考 URL

http://www.sinfonica.or.jp/information/research/ws/newsbulletin_list.pdf

<http://www.rois.ac.jp/tric/micro/asia.html>